

連載：第44回 亀ちゃんにも言わせてよ！

桜は咲くのか

卒業式

私が神奈川県相模原市のこどもセンターの職員をやっていることは何号か前にここで触れましたが、先日、その関係で館長に代わって管轄地域の中学校の卒業式に出席しました。日頃こどもセンターに遊びに来る中3の子どもたちの卒業式でした。一学年の約4分の1くらいがセンターの常連さんたちです。なかでも、学校でマークされているグループの子どもたちは大半が常連です。そのような子どもたちにとっても卒業式は特別な日です。普段は欠席・遅刻・早退をくり返しているのに、卒業式にはばっちりきめて朝からちゃんと来ていました。しかし、あまりにきめ過ぎていた子もいて、先生から注文を付けられていたようです。本人たちは「亀ちゃん、むかつく。髪黒くさせられたよ」などと私を見るなり不満を漏らしていましたが、とりあえず式にはちゃんと出席してみんな嬉しそうでした。

卒業後

さて、卒業式に無事出席できた子どもたちのなかには、その後の進路が決まっていなかった者がいました。上述のばっちりきめていた子たちです。何故か今年は女子ばかりです。彼女たちを受け入れる高校も就職先もありません。進学希望ならば神奈川県では、3月に入ってからだと二次募集か定時制の後期選抜を受けることになります。ところが県内の公立定時制高校の枠を増員しても1.19倍（昨年度0.60倍）ということだそうです。

厳しく言えば今まできちんと勉強してこなかったツケが回ってきた「自業自得」ということになるのかもしれませんが、それは相手が大人であったら言う言葉であり、こどもに対して言う言葉でしょうか。彼女たちがこのような状態になっていることは、すべて彼女たちの責任なののでしょうか。今彼女たちは出来ることなら高校に行きたいと思っています。

「学校つまんねえよ」などと言っていたのに、今は高校に行きたいと思っています。もしかしたら、高校に入ってもまた「つまんねえ」と言って授業をエスケープするかもしれません。それでも今は高校に行きたいと思っています。その思いを受け止めてあげる公立高校はないのでしょうか。（彼女たちの共通項は家庭の事情で私立高校には行けないことです。）

どうすればいいのか

そんな彼女たちは「とりあえずバイト探すよ」と言っていますが、現実はその甘くはないようです。今は中卒ですぐに雇ってくれる所はなかなか見つかりません。結局、行き場がなくて、ときどきこどもセンターに顔を出しています。でも、いつまでもそうしているわけにはいきません。いったい彼女たちはどうすればいいのでしょうか。格差社会が広がっていると言われていますが、このような状況もまた格差社会の広がりを現している局面の一つなのでしょう。

このまま彼女たちが追い詰められたとき、生きていくためにどうするのか。みんな可愛い女の子たちです。悪い想像はしたくありませんが、それでもついに悪い想像をしてしまいます。彼女たちの上にも春には桜が咲くことを願っているのですが……。

亀山 憲一 [会員・フリーで活動中の法学研究者
(犯罪学・刑事法)]

